

37 **青花花文双耳小壺 1口**  
 元～明時代 14-15世紀、磁器  
 高さ2.4 口径2.7 胴径6.4 底径3.7  
 2023年度尾崎直人氏寄贈

38 **赤絵花卉文合子 1口**  
 漳州窯  
 明時代 16-17世紀、磁器  
 高さ4.9 径6.0×6.0 高台径3.8  
 2023年度尾崎直人氏寄贈

39 **経編幾何学文様縹系紋織 1枚**  
 ティモール島  
 インドネシア 20世紀、木綿  
 196.0×100.0  
 2023年度尾崎直人氏寄贈

作品29～39は、福岡市美術館の元学芸課長・尾崎直人氏が蒐集、ご寄贈されたコレクションです。尾崎氏には平成12年度（2000）に亀山焼を1件、同25年度（2013）にインドシナ半島の古陶磁器片資料を寄贈いただきました。3度目となる今回は、古陶磁を中心に17件をご寄贈いただき、本展ではその内の11件をご紹介します。

陶磁はタイ・ベトナム陶磁6件（作品29～34）、中国陶磁4件（作品35～38）からなります。《黒陶刻線文広口壺》（作品29）は、黒色の土器にうねるような波状の文様が陰刻線で彫り出されており、パンチェン土器の中でも古いタイプの特徴を示します。力強い文様やシャープで堂々とした姿が見どころです。《黒釉双耳瓶》（作品30）は、黒褐色の釉薬や粗い胎土に特徴があり、シーサッチャナーライ窯で焼かれた陶磁の中でも初期の作例であるモンタイプに属しています。《黄釉緑褐彩碗》（作品35、36）は、唐から五代にかけて輸出向けの陶器を数多く製作した中国・長沙窯で焼かれたものです。《幾何学文様紋織》（作品39）は、ワニのような生き物や菱形を繰り返し配したデザインが特徴で、インドネシアの東南端に位置するティモール島で製作されたと考えられます。

40 **（特別出品）花鳥春景 6曲1双**  
 津田青楓（1880-1978）  
 大正9年（1920）、紙本着色  
 縦177.0 横373.3（各）  
 加野宗三郎氏遺品 1985年伊藤千賀氏・加野象次郎氏寄贈

41 **庚申尊天図**  
 仙厓義梵（1750-1837）  
 江戸時代 19世紀、紙本墨画  
 縦89.6 横27.7  
 加野宗三郎氏遺品 2023年度加野象次郎氏寄贈

42 **墓図**  
 仙厓義梵（1750-1837）  
 江戸時代 19世紀、紙本墨画  
 縦34.5 横52.2  
 加野宗三郎氏遺品 2023年度加野象次郎氏寄贈

43 **那珂川水鳥図**  
 仙厓義梵（1750-1837）  
 江戸時代 19世紀、紙本墨画  
 縦87.7 横27.8  
 加野宗三郎氏遺品 2023年度加野象次郎氏寄贈

44 **金龍寺宛書簡**  
 仙厓義梵（1750-1837）  
 江戸時代 19世紀、紙本墨書  
 縦20.0 横72.5  
 加野宗三郎氏遺品 2023年度加野象次郎氏寄贈

45 **題桜華詩**  
 曇栄宗暉（1750-1816）  
 江戸時代 19世紀、紙本墨書  
 加野宗三郎氏遺品 2023年度加野象次郎氏寄贈

作品40～45は、大正から昭和前期に活躍した加野宗三郎氏（1889-1946）が所蔵していました。宗三郎氏は江戸時代から続く博多の造り酒屋「萬屋」を営むかたわら美術や文芸に関心を向け、多くの美術家らと交流しました。明治から昭和にかけて図案、洋画、日本画など幅広いジャンルで活躍した津田青楓（1880-1978）もその一人です。彼が手がけた日本画の大作《花鳥春景》（作品40）は、加野宗三郎氏の旧蔵品で昭和60年度（1985）に氏のご息女の千賀氏、ご令孫

の象次郎氏によって福岡市美術館に寄贈されました。宗三郎氏のコレクションは、近代画家の作品だけでなく、江戸時代の書画にも及んでいます。

作品41～44は、いずれも江戸時代の禅僧、仙厓義梵（1750-1837）が手がけたものです。日本最初の禅寺、聖福寺（福岡市博多区御供所町）の住職を務めた仙厓義梵は親しみやすい書画を通して禅の教えを分かりやすく伝えたことから「博多の仙厓さん」と呼ばれて人びとから慕われました。

これらの仙厓作品は、宗三郎氏の曾祖父で萬屋の開業者でもある堺宗平（1803-1881）の頃にもたらされたもののようです。萬屋を訪れる好酒家の中には、酒代として仙厓の書画を持ち込む客もいたらしく、その結果、多くの仙厓作品が加野家に伝わることになったのです。

宗三郎氏は自身の別邸である「環水荘」や「柳北亭」で来福した美術家や文化人をもてなしましたが、その際に仙厓作品が鑑賞に供されることもあったようです。

作品45は、崇福寺（福岡市博多区千代）の住職を務めた曇栄宗暉が詠んだ七言律詩です。曇栄は、仙厓と同年で一緒に山登りをするなど親しく交わったことも知られています。詩は、曇栄が住職を隠退したのちに暮らした永寿院（福岡市博多区御供所町）に咲いた桜について詠んだもので、朝露をたたえた美しさを褒め称えています。

※國生雅子・井上洋子「環水荘遺翰—加野宗三郎宛書簡集—（三）」『福岡大学人文論叢』第55巻第3号、令和5年



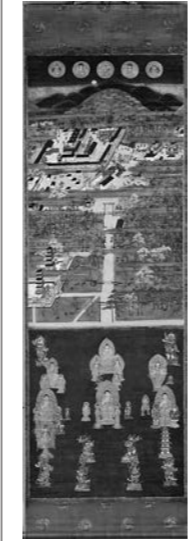
次回展示予告

【松永記念館室】

◆表具のキホン

6月4日(火)～8月18日(日)

書や絵画を、紙や裂地などを使って掛軸や巻物に仕立てることを「表具」と言います。作品を支える「表具」に焦点を当て、松永コレクションの名品を通してその基本を紹介します。



《春日社寺曼荼羅図》南北朝時代14世紀

【企画展示室】

◆源氏物語の世界

6月18日(火)～8月4日(日)

紫式部が執筆した『源氏物語』は、平安時代の華やかな貴族文化の象徴として、長く人びとに愛されました。本展では、『源氏物語』や紫式部にまつわる、絵画や工芸をご紹介します。



《竹長春花文時絵筆筒（源氏物語入）》江戸時代 17世紀

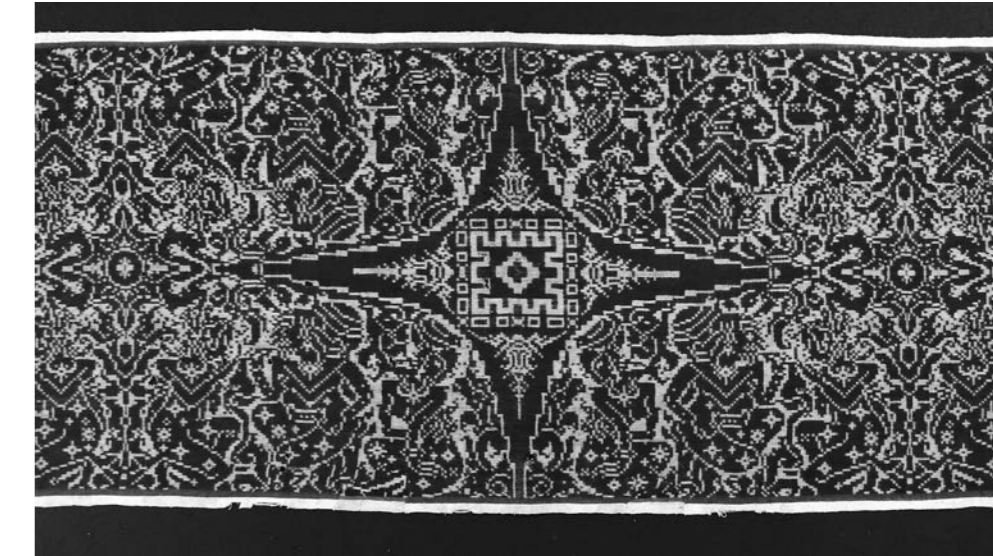
〒810-0051 福岡市中央区大濠公園1-6  
 TEL 092-714-6051 (代表) FAX 092-714-6071  
 www.fukuoka-art-museum.jp

新収蔵品展

Exhibition of New Collections

会期 2024年4月23日|火|-6月16日|日|

会場 古美術企画展示室



作品28《人物幾何学文様経編経系縹系紋織（グリーンシン）》（部分）

福岡市美術館の古美術部門は、昨年度（2023年度）も篤志家からのご寄贈により、134件の美術品を収蔵することができました。本展ではその中から選んだ45件をお披露目いたします。貴重な蒐集品を福岡市美術館へご寄贈くださった方々に心より感謝申し上げます。

<b>出品リスト・解説</b>
※作品データは、出品番号、作品名、員数、作者または産地、時代・世紀、材質、サイズ (cm)、寄贈者名の順で記載しています。いずれも該当するデータがない場合は省略しています。
※出品23〜28、39のサイズについては、経糸方向×緯糸方向と記載しているため、見た目上の縦横とは一致しない場合があります。
※展示の順番と出品番号は必ずしも一致しません。

1 白磁椎茸形手付鉢 1口
<p>須恵焼</p> 江戸時代 19世紀、磁器
<p>高さ8.0 径24.5 底径10.3</p> 小西コレクション 2023年度小西健太郎氏寄贈

2 染付菊蝶文手付鉢 1口
<p>須恵焼</p> 江戸時代 19世紀、磁器
<p>高さ9.5 径22.7 高台径13.5</p> 小西コレクション 2023年度小西健太郎氏寄贈

3 染付花鳥文水指 共蓋 1口
<p>須恵焼</p> 江戸時代 19世紀、磁器
<p>小西コレクション 2023年度小西健太郎氏寄贈</p>

4 染付注連縄文手付火鉢 1口
<p>須恵焼</p> 江戸時代 19世紀、磁器
<p>高さ21.0 胴径18.0 高台径12.5</p> 小西コレクション 2023年度小西健太郎氏寄贈

5 染付竹文鮫鱧手焙 1口
<p>須恵焼</p> 江戸時代 19世紀、磁器
<p>小西コレクション 2023年度小西健太郎氏寄贈</p>

6 染付山水文急須 1口
<p>須恵焼</p> 江戸時代 18-19世紀、磁器
<p>小西コレクション 2023年度小西健太郎氏寄贈</p>

7 染付麒麟文水指 1口
<p>平戸焼</p> 江戸時代 19世紀、磁器
<p>高さ16.2 胴径17.4 底径12.6</p> 小西コレクション 2023年度小西健太郎氏寄贈

8 染付経巻形花入 1口
<p>平戸焼</p> 江戸時代 19世紀、磁器
<p>高さ21.1 幅9.5</p> 小西コレクション 2023年度小西健太郎氏寄贈

9 絵唐津花文茶碗 1口
<p>唐津焼</p> 江戸時代 17世紀、陶器
<p>高さ8.7 口径13.6 高台径5.5</p> 小西コレクション 2023年度小西健太郎氏寄贈

10 古唐津片口茶碗 1口
<p>唐津焼</p> 江戸時代 17世紀、陶器
<p>高さ7.7 口径11.1 高台径4.3</p> 小西コレクション 2023年度小西健太郎氏寄贈

11 絵唐津耳付水指 1口
<p>唐津焼</p> 江戸時代 17世紀、陶器
<p>高さ11.8 胴径13.4</p> 小西コレクション 2023年度小西健太郎氏寄贈

12 藁灰釉手付鉢 1口
<p>高取焼・内ヶ磯窯</p> 江戸時代 17世紀
<p>高さ13.5 口径24.0 高台径9.0</p> 小西コレクション 2023年度小西健太郎氏寄贈

13 伊羅保刷毛目写茶碗 1口
<p>柳原焼</p> 江戸時代 19世紀、陶器
<p>高さ7.3 口径11.4 高台径5.0</p> 小西コレクション 2023年度小西健太郎氏寄贈

14 染付山水文湯呑 1口
<p>柳原焼</p> 江戸時代 19世紀、磁器
<p>高さ12.5 胴径9.4 高台径7.0</p> 小西コレクション 2023年度小西健太郎氏寄贈

15 鉄釉丸壺茶入 1口
<p>瀬戸（美濃）</p> 江戸時代 17世紀、陶器
<p>高さ7.1 胴径9.4 底径5.8</p> 小西コレクション 2023年度小西健太郎氏寄贈

16 志野磨手「年男」写茶碗 1口
<p>九代・樂吉左工門 [了入] (1756-1834)</p> 江戸時代 18-19世紀
<p>高さ8.5 胴径12.7 高台径5.7</p> 小西コレクション 2023年度小西健太郎氏寄贈

17 青磁獅子鈕子三足香炉 1口
<p>龍泉窯か</p> 明時代 15-16世紀、磁器
<p>高さ13.7 胴径6.8</p> 小西コレクション 2023年度小西健太郎氏寄贈

18 絵御本雁文茶碗 銘はつかり 1口
<p>朝鮮王朝時代 17世紀、陶器</p> 高さ9.3 口径14.0 高台径5.8
<p>小西コレクション 2023年度小西健太郎氏寄贈</p>

19 茄子 1個
<p>江戸〜明治時代 19-20世紀、海松</p> 長さ11.0 幅6.2
<p>小西コレクション 2023年度小西健太郎氏寄贈</p>

20 四季花鳥画帖 1帖
<p>岡本秋暉 (1807-1862)</p> 江戸時代 19世紀、絹本着色
<p>縦7.6 横7.6</p> 小西コレクション 2023年度小西健太郎氏寄贈

21 四季草花画帖 1帖
<p>鈴木守一 (1823-1889)</p> 江戸〜明治時代 19世紀、絹本着色
<p>縦8.5 横8.5</p> 小西コレクション 2023年度小西健太郎氏寄贈

22 山水花卉雑画卷 4巻
<p>伝・浦上玉堂 (1745-1820)、伝・木米 (1767-1833)、伝・田能村竹田 (1777-1835)、伝・頼山陽 (1781-1832)</p> 江戸時代 19世紀、紙本墨画、淡彩
<p>玉堂巻：縦8.0 横139.3、</p> <p>木米巻：縦8.0 横136.5、</p> <p>山陽巻：縦8.0 横123.6、</p> <p>竹田巻：縦8.0 横141.4</p> 小西コレクション 2023年度小西健太郎氏寄贈

<p><b>作品1〜22</b>は、福岡市で証券会社を経営された小西友次郎氏 (1887-1964) が蒐集されたものです。友次郎氏は、博多の禅僧・仙厓義梵 (1750-1837) の書画のコレクターとして良く知られており、氏が蒐集された仙厓の書画および遺愛品は去る平成28年度 (2016) に当館へご寄贈いただきました。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

茶人でもあった友次郎氏は、九州陶磁を中心とした茶道具や絵画も熱心に蒐集されており、本展でご紹介する作品22件は昨年度新たにご寄贈いただいたコレクションの一部です。

陶磁の大半は、須恵焼（**作品1〜6**）、平戸焼（**作品7、8**）、唐津焼（**作品9〜11**）、高取焼（**作品12**）、柳原焼（**作品13、14**）などの九州陶磁です。《**染付山水文急須**》（**作品6**）は、京都の陶工・沢田舜山 (1818-1894) の銘を伴う点も注目され、福岡と京都の文化交流を示す好例です。

絵画（**作品20〜22**）は掌に収まるような極小の画卷や画帖という極めて珍しい形式である点が注目されます。画帖（**作品20、21**）は四季おりおりの草花や鳥を12図描いたもので、鮮やかな色彩や細やかな描写が見どころです。画卷（**作品22**）は、4巻からなり、いずれも著名な文人画家の落款、印章を伴います。本人が手がけたかどうかは慎重に考える必要がありますが、文人による小画卷は類例がほとんどないため貴重です。

23 幾何学文様緯糸紋織 1枚
<p>スマトラ島 西スマトラ州</p> インドネシア 19-20世紀、絹・撚金糸・撚銀糸
<p>262.0×73.0</p> 2023年度一杉秀樹氏寄贈

24 鋸齒文様緯緋緯糸紋織 1枚
<p>スマトラ島 南スマトラ州 パレンバン</p> インドネシア 19-20世紀、絹
<p>220.0×89.0</p> 2023年度一杉秀樹氏寄贈

25 斜線文様更紗 1枚
<p>ジャワ島</p> インドネシア 19-20世紀、木綿
<p>385.0×50.0</p> 2023年度一杉秀樹氏寄贈

26 流水草花文様更紗 1枚
<p>ジャワ島 中部ジャワ ソロ</p> インドネシア 19-20世紀、木綿
<p>250.5×105.5</p> 2023年度一杉秀樹氏寄贈

27 花唐草斜線文様更紗 1枚
<p>ジャワ島 中部ジャワか</p> インドネシア 19-20世紀、木綿
<p>245.5×105.0</p> 2023年度一杉秀樹氏寄贈

28 人物幾何学文様経緯緋経糸緯糸紋織（グリーンシン）1枚
<p>バリ島 テンガナン</p> インドネシア 19-20世紀、木綿・撚金糸
<p>229.0×54.0</p> 2023年度一杉秀樹氏寄贈

<p><b>作品23〜28</b>は、一杉秀樹氏が蒐集、ご寄贈されたインドネシアの染織85件のうちの6件で、その中心はスマトラ島の染織（<b>作品23、24</b>）およびジャワ島のバティック（<b>作品25〜27</b>）です。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

インドネシア最西端に位置するスマトラ島のパレンバンは華やかな絹織物の産地として有名で、《**鋸齒文様緯緋緯糸紋織**》（**作品24**）はその好例です。また、《**幾何学文様緯糸紋織**》（**作品23**）のように金糸、銀糸で模様をあしらった豪華な作品もスマトラ島のミナンカバウの染織にはしばしば見られます。

首都ジャカルタのあるジャワ島では、バティックが盛んに制作されました。バティックとは、ろうけつ染めによって文様を表現した染織品のこと。デザインや色合いに様々なバリエーションがあり、蠟の亀裂によって生まれる様々な表情も見どころです。

一杉氏のコレクションは、これらスマトラ、ジャワといったインドネシアの主要な島に加えて、さらに東部に広がる島々にも及んでいます。

ジャワ島の東に位置するバリ島も、豊かな染織文化を育んだ地域です。特に有名なのがバリ島東部のテンガナンで織られた経緯緋（**作品28**）で、四世星を基調としたデザインのこの経緯緋は、グリーンシンとも呼ばれています。

29 黒陶刻線文広口壺
<p>パンチェン</p> タイ 紀元前3600-前3000年、土器
<p>高さ28.0 胴径23.6 高台径12.0</p> 2023年度尾崎直人氏寄贈

30 黒釉双耳瓶 1口
<p>シーサッチャナーライ窯（モンタイプ）</p> タイ 13-14世紀、陶器
<p>高さ28.5 口径6.4 胴径14.5 高台径9.8</p> 2023年度尾崎直人氏寄贈

31 鉄絵麒麟唐草文瓶 1口
<p>シーサッチャナーライ窯</p> タイ 14-15世紀、陶器
<p>高さ36.2 口径9.6 胴径19.2 底径15.2</p> 2023年度尾崎直人氏寄贈

32 青花巻貝唐草文鉢 1口
<p>ベトナム 15-16世紀、磁器</p> 高さ8.0 口径14.8 高台径6.2
<p>2023年度尾崎直人氏寄贈</p>

33 素焼きパイプ 1本
<p>タイ 17-18世紀、粘土焼成</p> 高さ5.4 長さ8.3
<p>2023年度尾崎直人氏寄贈</p>

34 素焼きパイプ 1本
<p>タイ 17-18世紀、粘土焼成</p> 高さ4.6 長さ9.1
<p>2023年度尾崎直人氏寄贈</p>

35 黄釉緑褐彩碗 1枚
<p>長沙窯</p> 唐〜五代 9-10世紀
<p>高さ5.2 口径15.2 高台径5.5</p> 2023年度尾崎直人氏寄贈

36 黄釉緑褐彩碗 1枚
<p>長沙窯</p> 唐〜五代 9-10世紀
<p>高さ5.3 口径15.2 高台径5.5</p> 2023年度尾崎直人氏寄贈